

久留米大学では、受診時に患者さんから取得された試料と診療情報等を使用して下記の研究を行っています。本研究で使用される試料・診療情報等は他機関への提供は行いません。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】喉頭乳頭腫における局所宿主免疫応答と予後の解析

【試料・診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：2000年1月～2019年12月の間に受診
- 2) 受診科：久留米大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- 3) 対象疾患名：喉頭乳頭腫と診断された方

【試料・診療情報等の項目】

試料：通常診療において、検査のために採取された生検組織ならびに手術時の切除組織

診療情報等：病歴、診断名、年齢、性別、入院日、手術日、治療内容、既往歴、再発日、再手術日、最終観察日、咽喉頭内視鏡検査画像

【研究目的】

喉頭乳頭腫は喉頭に発生する良性腫瘍ですが、病変が多発したり再発したりすることがしばしば問題となります。現在の治療の主体は手術での切除ですが、再発に対して複数回の手術を行うことによって声の機能の悪化を来すことがあります。そのため、治療に難渋することが予想される患者さんを把握するとともに、手術以外の治療法を含むより効果的な治療を提供することが求められています。

近年、腫瘍に対する免疫に関する研究が盛んに行われており、特に悪性腫瘍の領域では多くの研究成果が報告されています。喉頭乳頭腫は悪性腫瘍ではないものの再発を繰り返す病気であり、他の腫瘍と同様に免疫との関わりについて研究が進むことは、今後の治療に役立つ可能性があると考えられています。

そこで、久留米大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科で喉頭乳頭腫の治療を受けられた方の組織生検や手術から得られた喉頭乳頭腫組織と診療録の情報を用いて、喉頭乳頭腫に対する腫瘍付近での免疫の状態を明らかにするとともに、その状態が患者さんの予後との関係や、繰り返す治療によってどのように変化しているかを探索することを目的に本研究を行います。

【研究（利用）期間】久留米大学倫理委員会承認後から西暦2023年12月まで

【利益相反に関する事項】

本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません

【問い合わせ先】

研究責任者：久留米大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座 助教 栗田 卓

問い合わせ担当者：久留米大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座 助教 栗田 卓

電話：0942-31-7575（内線3592）

E-mail: kurita_takashi@med.kurume-u.ac.jp